

令和4年度

# 学校プロフィールと学校評価

## 1 学校教育目標

**自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成**

「しなやかに生きる子」とは、どんな困難に直面しても、

しなやかな強さで自己実現しようとする意志と実践力を持つ子ども

## 2 学校づくりのテーマ

子どもにとっても、

教職員にとっても、

保護者にとっても、

**『明日も来たいと思う学校』**に

**『凡事一流』**

あたりまえのことを一流に！

大紀町立大宮小学校

# 3 大宮小学校 グランドデザイン

## 2022年度 大宮小学校グランドデザイン

◆学校教育目標 自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成  
 「しなやかに生きる子」とは、どんな困難に直面してもしなやかな強さで、自己実現しようとする意志と実践力を持つ子ども

◆めざす子ども像  
 (1)自ら課題を見つけ、とことん考える子 『もっと知りたい』  
 (2)自分の考えや気持ちを表現し、伝え学び合える子 『伝えたい』  
 (3)お互いの違いや良さを認め合い、自他を大切にできる子  
 (4)しなやかな強さを持ち、なんにでも前向きに挑戦しようとする子

教育活動全体で育てる      各教科等の授業で育てる      地域との連携で育てる

◆学校づくりのテーマ (1)当たり前のことを一流に 『**凡事一流**』  
 (2)子どもにとっても、教職員にとっても、保護者にとっても 『**明日も来たいと思う学校**』

◆研究主題 『**もっと知りたい・伝えたい**』  
 ～ 自分の考えや気持ちを筋道立てて表現できる子どもの育成 ～

◆めざす教職員像  
 ・情熱と使命感 「子どもに向き合い、子どもと共に学び続ける教職員」  
 ・ワンチーム 「学び合い、支え合って教育課題を解決する教職員」  
 ・豊かな人間性 「子ども・保護者・地域の人々から信頼される教職員」

**重点取組事項Ⅰ**

確かな学力を育む教育活動

- 学力向上の推進
  - ・基礎学力の定着と活用
  - ・学んだり考えたりする事が好きな児童
  - ・論理的な思考と表現
  - ・外国語・情報教育(タブレット活用)の推進
- 特別支援教育の充実
  - ・子ども理解と支援体制の充実
  - ・全職員による情報交換と共通理解
  - ・学校へ出にくい児童への対応
  - ・外部機関(専門機関)との連携
- 教職員の授業力・資質向上
  - ・授業力向上(わかる授業)のための研修
  - ・研究テーマにせまる取組の充実
  - ・学調やみえスタの分析と授業改善
  - ・みんなに信頼される学校(教職員)

【各教科・特別支援教育】

**重点取組事項Ⅱ**

安心安全と豊かな心を育む教育活動

- 防災・安全・健康教育の推進
  - ・自分の命を自分で守れる児童の育成
  - ・教職員の意識向上と組織力の強化
  - ・健康・食教育の充実 ※コロナ対策
- 道徳性・人権意識の育成
  - ・いじめや差別のない安心安全な学校
  - ・違いや良さを認め合い本音が出せる仲間づくり
  - ・教職員の人権意識の向上
  - ・大宮中学校区人推協の活動を推進
- 人とつながる力の育成
  - ・自己肯定感や自尊感情の育成
  - ・児童会、学級活動で仲間づくりを推進
  - ・当たり前の事を一流に『**凡事一流**』
  - ・QUの分析と活用

【防災・安全教育】  
【道徳・人権教育】

**重点取組事項Ⅲ**

地域と共にある開かれた学校づくり

- 地域学習の充実
  - ・学習活動のねらいの明確化と工夫
  - ・郷土特色を生かした継続性ある取組
  - ・人との出会いを通して思いや願いを知る取組
  - ・郷土を愛する心の育成
- 情報発信の充実
  - ・各種たより、HPによる情報発信
  - ・授業参観や学校公開の推進
  - ・学校評価、関係者評価の充実
- 教職員が働きやすい環境づくり
  - ・校内安全衛生委員会の活性化
  - ・時間外労働縮減(月45h,年360h→0人)
  - ・休暇取得(平均18日以上)
  - ・会議時間短縮(1h以内達成率80%)
  - ・定時退校日(毎週火曜、達成率90%)

【生活科・総合学習等】

～ 地域 や 小規模校 の 特性 を 活かした 教育活動 の 推進 ～



## 4 正晴の物語

作： 阪井 宏行

### ◆ 正晴の一日 登場人物

- ・正晴 …… 大宮小6年生
- ・翔太先生 …… 正晴の担任 28歳
- ・お父さん …… 哲生 45歳 役場勤務
- ・お母さん …… 仁美 42歳 看護師
- ・お兄さん …… 翔 15歳 大宮中3年生
- ・その他の先生 …… 多数

大宮小の学校プロフィール(学校の目指す姿や現在の位置)を物語風にしてみました。一読してもらうと、今の大宮小の様子が分かってもらえると思います。

物語は、大宮小を舞台に、令和4年の秋のある一日を児童目線で書き綴っています。今の大宮小の子ども達の様子を感じとってみてください。 内容の8割くらいは本当の話です。※2割願望かも。



## 正晴の一日

あれほど暑かった夏が過ぎ去り、朝夕は心地よい涼しさを感じる季節になった。柔らかな朝日がカーテンの隙間から射し込む中、正晴は目覚めた。時計を見ると①6時20分、部屋を出ると台所からは②朝ごはんのおいがしている。お母さんが作った朝食をテーブルに配膳するのが僕の仕事になっている。冬の朝は嫌になる事もあるが、いつも家族の食事を作ってくれている母には心の中で③感謝している。

③「おはよう」と家族に声をかけると、朝刊を読んでいる父から「おはよう。今日も元気だな」と返事が返ってきた。中3の兄、翔はこの夏で部活動を引退し、自分の進路に向けて勉強に力を入れ始めている。昨日も夜遅くまでテスト勉強をしていたようで、まだ布団の中だ。

そうこうしているうちに朝食の準備が整い、家族4人で朝ごはんを食べ始めた。夕食で今日の出来事を話すことが多いが、朝食でも今日の予定や④社会の出来事が話題に上ることがある。父は朝食前に必ず朝刊を読んでいるので、社会に大きな出来事があると話題に出してくれる。自分にとってはそれが一つの情報源にもなっている。5年生の時には、朝の会の3分間スピーチで、ある出来事を教室で紹介し自分の感想を述べたことが何回かある。6年生の1学期には、社会の授業でその情報が役に立って、先生に褒められて嬉しかった覚えがある。父には感謝だ。

「ああ、今日も一日頑張るぞー！ 元気よく行ってきますー！」と言って、正晴は家を出た。

### ①【早寝、早起き、朝ごはん】

・家庭での生活習慣の充実、学校生活の充実につながります。本校では年1回生活習慣アンケートを実施しています。今年の結果として、

◇就寝時刻 ①～9時:24% ②9～10時:55% ③10～11時:10% ④11時～:7%

◇起床時刻 ②～6時:12% ②6～6時30分:45% ③6時30分～7時:32% ④7時～:12%

◇朝食 ①毎日食べる:94% ②食べない日がある:6% ③食べない日が多い:0%

### ②【家族への感謝と家族のつながり】

・家族への感謝や家族とのつながりはとても大切なこととして、学習の中に位置づけています。時には保護者の方をお願いしてメッセージを書いてもらったり、小さなころの思い出を話してもらったりすることがあります。大宮小ではどの家庭でも快く協力していただいています。

### ③【あいさつ】

・あいさつは社会生活の基本です。大宮小の子ども達はあいさつをしています、「もっと大きく元気に」「先生から言われる前に自分から」という思いを私たちは持っています。

### ④【社会の出来事】

・大人の役割として、子どもには、たくさんのお話をしあげたいものです。また、たくさん経験をさせてあげたいものです。やがて目の前に困難が現れてもそれを乗り越えられるように。



スクールバスが学校に着くと、1便で登校した子どもたちが運動場で遊んでいる。「低学年はいつも元気だ。自分もそうだったなあ。」と思いながら正晴は教室に向かった。

8時過ぎには担任の翔太先生が教室に来て6年生の一日が始まる。1限目の授業が始まるまでは朝の会だ。日直が司会をし、健康観察や予定の確認がある。朝の会が一通り終わると、次は朝学習だ。他の学年では、読書をしたり、算数や国語のドリルをしたりなど、その内容は様々だが、6年生は⑤「一学期からずっと『ディベート』」を行っている。最初はぎこちなかったけれど、最近ではみんな意見を言うのが上手になってきた。自分の考えを言うのも楽しいが、聞いていても面白い。今日のテーマは、孝史さんから出された「効果的な学習はデジタルが良いか紙が良いか？」だ。

朝の会と朝の学習が終わると、いよいよ授業が始まる。1限目は算数。算数は翔太先生と服部先生の⑥「TT(チームティーチング)の授業」だ。二人の先生がいると、いろいろな考えにも触れられし、分からないところも聞きやすい。算数はあまり得意ではなかったが、最近テストの点数も良くなり、自信もついてきた。中学校でも数学を頑張りたいと思っている。

時計を見るとちょうど12時だ。あと10分で4限目が終わる。お腹もずいぶん空いてきた。そう言えば今日の⑦「給食は『大紀町スペシャルメニュー』」の日、七保牛のステーキだ。

「あら、正晴ーきつきから時計ばかり見ているぞ。お腹が空いたと思うがもう少し頑張れ！」翔太先生の注意に、周りのみんながどっと笑った。

#### ⑤【ディベート】……論理的な思考力と表現力の育成

大宮小の教職員は、『もっと知りたい 伝えたい』という研究テーマで研究活動を行っています。「もっと知りたい」の部分は知的な好奇心と知識理解の充実。「伝えたい」の部分は豊かな表現力。令和2年度には外国語の授業を中心に同テーマで研究発表会を開催し、成果を他校の先生方に見ていただきました。さらに、成果と課題を踏まえ、令和4年度は「～自分の考えや気持ちを筋道立てて表現できる子どもの育成～」というサブテーマを加え、研究活動を行っています。6年生の朝学習の「ディベート」はその取組の一つです。

#### ⑥【TT(チームティーチング)】

TTは少人数教育の一つの形態で、二人の教員が教室に入り授業を行います。大宮小では、週19時間のTTの授業を生み出し、主に算数の授業でTTの授業を行っています。平均すると各学級週に3時間くらいになります。

#### ⑦【給食】

子ども達は給食をほんとうに楽しみにしています。残食も少なく調理員さんからも「残食が少なくて嬉しい。」と言う話をよく聞きます。食の安全と安心に細心の注意を払って毎日丁寧に作ってくれる給食はどこにも負けない美味しさです。また、本校には大紀町6校の給食を束ねる徳田栄養教諭が在籍しており、各校での食育の授業やアレルギー対応に奔走してもらっています。大紀町も給食で七保牛を食べさせてくれたり、給食費を9割近く補助してくれたりしています。



やはり、七保牛は柔らかくて最高だった。大紀町が誇る特産物の一つだ。僕は自分の⑧生まれ故郷であるこの町が好きだ。

お昼休みに、いつも⑨地域学習でお世話になっている柏木さんや出口さん、西さんが、お米を持って学校に来ていた。「こんにちは」とあいさつすると、柏木さんが「おっ、いい挨拶するなあ。低学年の頃が懐かしいなあ。今日は4、5年生が文化祭で販売する米を持ってきたんさ。」と笑顔で返えてくれた。大宮小学校では、『人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト』の皆さんの協力を得て地域学習を行っている。滝原地区には、このプロジェクトがお世話してくれている学習田とピオトープがある。ピオトープには山水が引かれ、最近では数少なくなった水生生物が住んでいる。その周りには整備された花壇があり、毎年春と秋に、2、3年生がここで花植えをする。この3月には、隣の休耕田に蒔いた菜の花が咲くらしい。楽しみだ。4、5年生は学習田で米作りを行っている。米作りは、5月に田植え、7月に案山子づくり、9月に稲刈り、11月にお米の販売、12月には餅つき大会と、年間を通して伝統的な米作りを体験させてもらう。残念ながらコロナ禍で、餅つき大会は3年間中止になっている。この6年間お世話になった地域の方にはとても感謝している。機会があればどこかで恩返しをしたいと思う。

昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴った。この後は⑩なかよし班(縦割り班)での掃除が始まる。6年生はなかよし班(縦割り班)の班長なので、1年生から5年生までの班員をまとめなくてはならない。1学期には、手取り足取り1年生にほうきの使い方や黒板の消し方、その他、いろいろ

#### ⑧【この町が好きだ】 …… 児童アンケートより

・1月実施の児童アンケート「この町が好きだ。(4段階評価)」の項で、A評価85%、B評価15%の結果がありました。全国的にみても、非常に高い数字だと思います。この気持ちを大切にしていきたいと考えています。

#### ⑨【地域学習】

・地域にある組織「人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト」の皆さんに支えられて地域学習を展開しています。また、今年から大紀町内の全学校で「学校運営協議会」を立ち上げ、学校と地域のつながりをより強くしようとしています。

#### ⑩【なかよし班(縦割り班)の活動】

・全校児童が80名足らずの学校であるため、全校を10の縦割り班(1~6年生の混合班)に割って、掃除をはじめ様々な活動の場面で縦割り班活動を行っています。4年生は5、6年生の姿を見て、5年生は6年生の姿を見て、リーダーシップを身に付けていく姿が見てとれます。

#### ◆児童数

R4 1年:13名、2年:11名、3年22名、4年9名、5年10名、6年:11名、計76名

R5 1年:10名、2年:13名、3年:11名、4年22名、5年9名、6年:10名、計75名





るな学校生活のきまりや作業を教えたが、今はもう何でもできるようになっていいる。自分も5年生の頃は4月から班長としてやっていけるだろうかと不安に思っていたが、今は次の5年生にバトンタッチしていく時期に入っている。時がたつのは早いものだ。

担当区域である「虹の広場(多目的広場)」の掃除が終わったので、班員を集めて反省会を行った。ふと目に入ったのが、虹の広場の壁いっぱいには貼られている①『大宮小価値語』の写真。いつも見ているが、もう一度じっくり見てみた。1枚目は「人のためだからこそ 頑張れる」というタイトルで、入学式前日、1年生の教室で僕たち6先生が飾り付けをしているスナップ写真が載っている。写真の下には「あの人によるこんでほしい。みんなの笑顔が見たい。自分のためだけじゃなく、誰かのために行動するときほど、人は思った以上の力を出せる。相手が喜んでくれると、自分もうれしくなるから。相手が笑顔になると、自分も笑顔になるから。」と説明が加えられている。これは、先生方が普段の僕たちの生活を写真に撮って、「こんないいところを見つけたよ。」って、全校に紹介してくれる取組だ。

集会があると、この「大宮小 価値語」の掲示物を指して、校長先生が②『凡事一流(ほんじいちりゅう)』について話をされる。「勉強や生活、いろいろな生活の場面で、当たり前のことを一生懸命に取り組もう。当たり前前の事を当たり前以上に、精魂込めて一流を目指そう。」

価値語の2枚目の写真が「心に向け 五感で聴く」というタイトルである。4月の始業式での5、6年生の写真である。②椅子に座った全員が背筋を伸ばして、手を膝に置き、おへそを話し手の方

①【大宮小 価値語の取組】

生徒指導担当者から、「問題が起きてから対処する後追いの生徒指導ではなく、問題が起きないように先取りの生徒指導を目指したい。」と提案を受けました。そのねらいと取組は「子どもたちの日常生活の良い姿を見つけ、その姿や行動に価値付けをする。本人にとって普通の行動でも、周りからきちんと価値づけしてあげることで、本人が自分の行動に価値に改めて気付くこともある。具体的には、児童の良い姿を写真に撮り掲示物にする。掲示物を通じて全校児童に紹介することにより、大宮小児童の価値のある姿や行動が全校に波及するであろう。」ものです。2/1 現在、虹の広場に 24 枚の掲示物(価値)が貼られています。

②【凡事一流(ほんじいちりゅう)】 …… 当たり前前のことを一流に！

校長から、今年のスローガンとして、全職員と全校児童に提示がなされました。学校教育目標は『自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成』ですが、その下に、学校づくりのテーマとして①『凡事一流』と ②『明日も来たいと思う学校』を位置づけています。

右の2枚目の写真の姿はまさに凡事一流が体現されたものであると思います。



人のためだからこそ 頑張れる

「あの人(ひと)によるこんでほしい」「みんなの笑顔(あはれ)が見(み)たい... 自分(自分)のために行動(こうどう)するときほど、人は... 自分もうれしくなるから、相手が笑顔になると、自分も笑顔になるから。」



心に向け 五感で聴く

人(ひと)が話す(はなす)ときには、相手(あいて)に体(からだ)と心(こころ)を向(む)けよう。そして、相手の話す(はなす)言葉を捉(とら)えたり、言葉(ことば)の意味(あじ)わたりと、耳(みみ)だけじゃなく、体のいろんなところを使って(つかって)聴(き)こく。

※その他の価値語は  
大宮小のホームページ参照

に向けて、全身で聴いている様子が伝わる写真だ。僕はこの写真が好きで、いつも人の話を聴くときは、全身の神経を集中して聴くことを心がけている。「凡事一流」、当たり前前ことを当たり前以上にできるようにしたい。

5限目の授業は、文化祭のクラス発表に向けての学級の取組。⑬みんなとワイワイ考えたり、活動することは一番楽しい。6年生は4月から、ことあるごとに⑬『プロジェクト活動』なるものを行ってきている。学級や学校の行事を前に、〇〇プロジェクトというチームを編成する。チームでプロジェクトの目的や方法(企画)を考え実行する。最初はどやどやっていいのかわからず、先生に頼ることも多かったが、最近ではみんな慣れてきてどのように計画・実行していけばいいのかわかっている。10月の修学旅行も、いくつかのチームに分かれて活動した。修学旅行後、校長先生から、「みんなすごかったなあ。旅行中、自分たちで考えて行動できていたから、何も心配する要素がなかった。まさに自分たちでつくる修学旅行やったね。」そんな評価をいただいた。自分自身最高の修学旅行だったし、校長先生からすごく褒めてもらって、これからもっと頑張ろうと思った。

6年生の文化祭でのクラス発表は劇をすることに決まっている。僕はその中で脚本チームのプロジェクリーダーだ。社会で習った裁判員制度とブレームンの音楽隊のストーリーをミックスさせて、6年オリジナルの脚本を作るつもりだ。

2学期は、運動会、修学旅行、文化祭と、⑭大きな行事が目白押しで忙しい。最後の運動会の一ランの取組も忘れられない思い出。⑮学校全体のリーダーとして、文化祭も絶対成功させる。

### ⑬【プロジェクト活動】

・学力とともに、子ども達が社会に出た時、必要となる力の一つが、「チームで目的と目標を共有し、ゴールを目指して協働しながら取り組むことのできる力」です。児童アンケート【人とのつながり】の項で「人と話したり、遊んだりすることは楽しい」の質問に、A 評価 84%、B 評価 15%の結果でした。

### ⑭【行事を通した学校づくり】

・大宮小では、節目節目にある行事を子ども達の成長の場として大切にしています。学級や学校全体の仲間づくりをはじめ、活動に対する前向きな姿勢や主体的な行動力、高学年のリーダーシップなど、行事の取組を通じて、子ども達の成長が見えます。文化祭での6年生の演劇は、小学生とは思えないほど完成度の高いものでした。

### ⑮【学校のリーダー】

・「学校の質は最高学年で決まる。」と言っても過言ではありません。何も分からない1年生から始まる6年間、教職員は6年後の姿(ゴール)を想像し、そのゴールを目指して、子ども達にひとつひとつ力をつけていきます。今の6年生も、4年生の頃どこまで行けるかなあ?と思いましたが、今では安心して学校を任せられる最高学年に成長しています。5年生は6年生の姿を追いかけ、4年生は5年生の姿を追いかけ、大宮小を担うリーダーシップを身につけていきます。そんな伝統が大宮小には根付いています。





6限目終了のチャイムが鳴った。帰りの会をしたら今日一日の終わりだ。今日も忙しかったが充実した一日だった。今日の宿題は、⑯タブレットを持ち帰り社会の調べ学習だ。もう一つ、担任の翔太先生から出されている課題がある。「文化祭に向けて、自分の目標と学級の目標を考える。」という課題だ。翔太先生は、行事のたびに「自分は何を目指してこの行事に取り組むのか？ 何のために行動するのか？ その⑰目的を大事にしてください。」と言う。なんとなく文化祭に向けて、自分の中でその目的がはっきりしてきているが、もう一度自分の中でその目的を整理して、自分と学級の目標を立てようと思っている。

今日もいろいろ忙しかったが、友達ともいっぱい話をしたり、あそんだり、充実した一日だった。たまには嫌な時もあるが、⑱学校は楽しい。

正晴は「米倉さん、お願いします！」と元気な声で運動手さんに声をかけ、スクールバスに乗り込んだ。



#### ⑯【一人一台のタブレット】

・令和4年の1月に、大紀町にも一人一台のタブレットが入りました。一年経った今、低学年もその扱い方に慣れ、写真を撮ったり、ドリルをしたりしています。キーボードが打てるようになってくると、調べ学習からプレゼンテーションまで、幅が広がります。毎朝、パソコン室の保管庫から教室に運び、必要な授業ではタブレットを使い、帰りの会の前に保管庫に返す。といったサイクルで活用しています。

#### ⑰【目的と目標】

・目的と目標の違い、分かりますか？ ネットで検索すると「目的は、最終的に成し遂げたい事柄やありたいゴールの姿。目標は目的を達成するための指標やクリアすべきステップ。」との解説が多いようです。少し違う見方でメンタルトレーニングの先生が「金メダルを取るという目標があったとする。その時、その目的は人によって様々である。選手に聞くと、最初は国のためとか、お世話になった方のためと答えることが多い。しかし、突き詰めていくと、ある人はお金持ちになりたい、ある人は有名になりたい、というふうに分かる内面に向かう。目標実現のためには、何のために(目的)を突き詰めることが大事なのです。」というものもありました。学校でも子ども達によく目標を立てさせます。ただ、目の前の目標ではなく、その先にどんなゴールを想像しているのか？あるいは、何のためにそんな目標をたてたのか？ つまり、その目的を大切にしたいと考えます。なぜなら、目的意識が強ければ強いほど将来の夢が実現する可能性が高いからです。

#### ⑱【学校が楽しい】 …… 児童アンケートより

○「学校が楽しい」 A 評価 69%、B 評価 30% ○「先生は自分を分かってくれている」 A 評価 78%、B 評価18% ○「友達は自分を分かってくれている」 A 評価76%、B 評価22%

## 5 千草の物語

作： 阪井 宏行

### ◆ 千草の一日 登場人物

- ・千草 …… 大宮小 5 年担任 43 歳
- ・清 …… 千秋の夫 大宮中教員 45 歳
- ・雄紀 …… 長男 高校 3 年生
- ・亜希 …… 次女 中学 3 年生
- ・直人 …… 三男 小学 5 年生
- ・その他の先生 …… 多数

大宮小の学校プロフィール(学校の目指す姿や現在の位置)を物語風にしてみました。一読してもらおうと、今の大宮小の様子が分かってもらえると思います。

物語は、大宮小を舞台に、令和 4 年の秋のある一日を、教員目線で書き綴っています。今の大宮小の先生の姿を感じとってください。 内容の 9 割くらいは本当の話です。※1 割願望かも。





# 千草の一日

その日も千草は朝早く起きた。

テレビから流れてくる朝のニュースに耳を傾けながら、家族の朝食と高3の長男、雄紀のお弁当を作っている。「おはよう。」と言いながら中3の次女、亜希が朝食の準備を手伝いに来た。三男小5の直人はまだ寝ているようである。三人の子どもが小さかった頃も大変だったが、今は今で、中3と高3の進路決定の時期が迫っていて、頭の中の半分はクラスの子どもの事、もう半分は自分の子どもの事、目まぐるしく頭の中を切り替えている。

「おはようー！ ごはんできたよ。」千草は最高の笑顔で声をかけた。朝は慌ただしいが、①元氣と笑顔で家族に接しようと思がけている。②「おはようー！」呼応するように、夫、清の声が響いた。夫は近隣の中学校の数学の教員で、野球部の顧問をしている。国から出された「部活ガイドライン」で練習時間が縮小されてきているが、昔は土曜日も日曜日も家を空けることが多かった。昨今、②働き方改革が叫ばれる中で、徐々に見直しが進んでいるが、まだまだ課題も多い。

千草は、通勤の車の中で頭を徐々に切り替え、今日の授業や放課後の会議の段取りを反芻した。学校に着くと、朝から子ども達は元気に運動場で遊んでいる。声をかけながら校舎に向かい、職員室に入る。職員室では教頭先生が保護者からの欠席連絡を受けている。今は③新型コロナウイルス感染症の第7波の最中で、うちの学校でも何人が感染者が出ている。もう三年目になり、コロナとの付

## ①【朝は元氣と笑顔で】

・朝から怒ったり、小言を言ったりしていませんか？担任は毎朝、教室で子ども達の顔色を見ています。体調が悪かったり、気持ちが落ち込んでいたりしないか？…… ご家庭でも、睡眠時間や朝食などの生活習慣の安定と、身体の健康、そして、子どもがいつも笑顔でいられるように心の安定に努めてください。

## ②【働き方改革】

・教員の仕事は、授業だけでなく、その業務は多岐にわたります。社会の高度化、多様化などにもない、その内容も複雑化しています。大宮小では、学校経営の基本方針に「教職員が働きやすい環境づくり」の項を起し、具体的な指標を設け取り組んでいます。 ※グランドデザイン、学校評価を参照

## ③【新型コロナウイルス】

・校舎内でのマスク、換気、黙食、手洗い、消毒は、今も続けていますが、行事や授業は普通どおりに戻っています。来年度からはさらに今まで通りの学校生活に戻っていくと思っています。



き合い方にも慣れてきているが、最初のうちは、その対応に苦慮することが多かった。学校に感染者が出る、全員が検査をしたり、学校の中を消毒したり。今では気をつけながら実施している行事も全部中止にするなど、学校生活は一変した。特に心配したのが、感染者やその家族に対する差別心だった。しかし、大宮小の子どもや保護者の対応は冷静だった。特に、子ども達はクラスに感染者が出ても、怖がったり差別することは一切なく、その児童が登校した時にどうしたら不安をなく学校生活に戻ることが出来るだろうかと真剣に考えた。これは、普段から自分たちが大切にしている④『仲間づくりや』人権教育』の成果だと、改めて思った事を覚えている。

5年生の算数は今日から「割合」の単元に入る。今年の⑤『全国学力学習状況調査』でこんな問題が出た。「りんご果汁が20%の飲み物が500mLある。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになる。この250mLにふくまれる果汁の割合は何%になるか?」……答えは、2人で分けても濃さは変わらないから20%であるが、全国の正答率は2割にとどまった。本校の結果も同程度で、10%と答える児童が多かった。何年も前から算数の割合の分野での課題が指摘されている。

今年も、4月に学力調査を終えると、すぐに児童の答案用紙をコピーして国語・算数・理科の4教科で分析を始めた。教員全員がまず問題を自分で解いて問題の意図や傾向を捉える。児童の解答を採点してできた問題とできなかった問題を分類する。そこから見えてくる児童の強みと弱み

#### ④ 【仲間づくりと人権教育】

・「自分の人権、他者の人権を守るための実践行動ができる力」を養うことを目的とし、学校教育全体を通じて、あらゆる場面で総合的に人権教育に取り組んでいます。大宮中学校区人権教育推進協議会(大宮中、大宮小、七保小)を核とし、小中の連携も大切にしなが、人権学習の研究授業や講演会、フィールドワークなどの学習会を持っています。今年度は、大宮中と大宮小の教員が県の研究会で実践発表も行いました。また、人権教育の基盤になるものが、「仲間づくり」であると意識し、あらゆる場面で、学級や学校の仲間づくりを大切にしています。

#### ⑤ 【全国学力学習状況調査】

・4月に行われるテストが終わるとすぐに学校で自己採点(平均点数では、毎年、全国平均を上回っている状況です。)を行い、全職員で子ども達の学力の強みと弱みを分析する研修会を行います。また、大紀町6校で組織する学力向上委員会でも大紀町の子どもの学力の分析がなされます。今年、国語、算数、理科で、大紀町の子どもの課題となる問題を「町の一問」として設定し、2学期以降、各校で課題克服に向けた取組を進めてきました。1月末に、4月と同じ問題(町の一問)を解かせたところ、本校では明らかな向上が見られました。どんな取組がその成果に結び付いたのか検討がなされました。例えば、国語の条件付き作文(条件にそって100字程度の論理的な文章を書く)では、毎朝行っている簡単な「ディベート」が功を奏したのではないかと、という分析がなされました。



を分析し、⑥授業改善に繋げる。このような研修活動を本校の研究主任である西村先生のリードで行っている。

今日の5年生の1限目は算数の授業だ。今日から学習する予定の三角形の面積は全国学力調査でも課題となっているところだ。先日の西尾先生の算数の研究授業も参考にしながら授業を組み立てようと考えている。今日も元氣と笑顔でクラスの子ども達に接するぞ、と心の中で思いながら、千草は職員室を出た。

4限目は、授業のない空き時間なので職員室に戻って、音楽を担当してくれている保地先生とバトンタッチだ。専科の先生は二人いて、全学年のいくつかの教科を担当してくれている。5年生は保地先生に音楽、服部先生に理科を担当してもらっている。他の学年と比較した自分のクラスの様子や、子どもが私以外の先生に見せる姿など、⑦視点の違った情報が得られるのでありがたい。子ども達もいろいろな先生に接することが必要だ。担任は、毎日空き時間が1時間程度あり、採点や授業準備、たより作成などの事務作業を行う。今日は放課後の職員会議で文化祭の二次提案をしなければならぬので、その準備をしている。

学校の活動は授業だけではないので、全職員で様々な⑧校務分掌(係の担当)を受け持っている。私の大きな担当は、文化祭の企画・運営と児童会活動だ。文化祭は、運動会と並んで、学校にとって大切な行事である。なぜなら、この⑨行事の取り組みを通して、学級や一人一人の子どもが大

#### ⑥【授業改善】

・教師は授業で勝負する。昔からよく言われる言葉です。子どもの興味関心を引き出し学習意欲を高め、実際に学力をつけてやるのが教師の務めです。この授業改善については、全教員が年に一回、研究授業を行っています。学習指導案(授業の計画書)を書いて、外部から指導主事を招き、全教職員で授業提案者の授業を参観します。授業後には反省会を持ち、お互いに学び合うなかで授業改善に結び付けます。



#### ⑦【視点の違った情報】

・「風通しの良い職場」という言葉をよく耳にしますが、良いことも悪いことも含めて、職員室では子どもの様子の情報交換をよくしています。大宮小の職員室は、お互いの仕事を尊重し、いつでも助け合える雰囲気があります。子ども達の仲間づくりと大切にしていますから、当然、職員室の仲間づくりも大事にしているということです。

#### ⑧【校務分掌(係の担当)】

・学校組織の係の担当のことを校務分掌(ぶんしょう)と言います。研究活動、人権教育、特別支援教育、生徒指導、児童会、学校行事、その他諸々、たくさんの分掌があり、みんなで分担しています。時期時期の職員会議で、各担当が活動の計画を立て提案し検討します。

大きく成長するからだ。そのため、大宮小では、その活動の『目的』と活動の『過程』を大切にしている。目的は「その活動や行事を通して、子ども達にどんな力をつけたいのか？」ということであり、これが明確でないと、ただこなすだけの活動になってしまう。逆に目的が明確であり、全職員が同じ方向を向いて子どもに接することができれば、その教育効果も大きい。そして、その目的に応じた活動の工夫も重要な要素である。目的に照らし合わせ無駄な活動は極力省き、必要な活動には手間と時間を割く。取組の過程を大切にし、工夫を凝らすことが重要だ。去年の文化祭は「子ども達とともに創り上げる文化祭」にしたいと、その目的を設定したが、今年の文化祭は「子ども達も達が主体的に活動する文化祭」にしたいと考えている。つまり、文化祭の活動を通して、子ども達の主体性や積極性を向上させる、というねらいである。

4限目終わりのチャイムが鳴った。千草は給食の準備に教室に向かった。給食の配膳は子ども達の係活動の一つだ。先生の校務分掌と同じく、子どもも自分達の学級生活や学校生活がうまく回って行くようにいろいろな係活動に就いている。学校は一つの社会なので、様々な係活動を通して、責任感、連帯感、勤労意欲、リーダーシップなど、多くの社会性を学ぶ。よくワールドカップなどで、日本チームのロッカー掃除や日本人サポーターの観客席掃除などが話題にのぼるが、あれなどは、⑩日本の小中学校の学校教育文化の中で、小さいうちからそのような感覚が刷り込まれているからだろうと、自分の仕事に社会に貢献していることを自負している。

#### ⑨【行事を通じて……目的と過程を大切に】

・大宮小では学校生活の節目節目にある行事を大切にしています。その大きなねらいは、子ども達の仲間づくりと主体性の育成です。当然、最初からみんなが同じ方向を向いているわけではありませんから、学級集団には問題が生じます。ただ、その問題を乗り越える過程で学級集団や個々の児童の力が高まっていきます。むしろ問題が起こった方が、解決の過程で子どもは成長します。ですから、大宮小では、行事を通じて、その過程を大切にしているのです。保護者のみなさんに一番見て欲しいのはその過程なのですが、実際にはそうはいきません。学級、学校だよりやこのプロフィールを通じて、少しでも学校の見えない部分を感じ取ってもらえれば幸いです。

#### ⑩【日本の学校文化】

・日本の学校には、児童・生徒による清掃活動があります。長年行われており、日本文化に深く浸透しています。掃除をサボっている先生に厳しく叱られたという思い出を持っている人も多いのではないのでしょうか。しかし、世界ではこの学校掃除は当たり前ではない(子どもが掃除を行う国:3~4割、清掃業者が行う国:6~7割)とされています。特に日本では、教室を綺麗にするという物理的な目的以外に、物を大切にする、他者と協力してやり遂げる、など人格的な教育目的を大切にしています。





大宮小の掃除は縦割り班を利用して行っているが、高学年のリーダーシップをもとに、班員が協力して真面目に取り組む姿が見られる。この伝統を継承し、さらに磨こうということで、今年から学校づくりのテーマとして『凡事一流』というスローガンを掲げ取り組んでいる。

昼休みは、児童会本部役員の手合せ会が入っている。児童会は5、6年の担任が担当している。今日の打合せは、文化祭の司会進行と、文化祭後の⑫人権週間に向けての活動についてだ。児童会活動は、自分たちの学校を自分たちの力でより良くしていこうとする自治活動を学習する場である。5年生の子ども達も児童会の活動を通じて、ずいぶん学校全体のことを考えリーダーシップをとることができるようになってきた。文化祭を終えると、6年生は卒業に向けてまとめの時期に入る。5年生は6年生からバトンを引き継ぎ、4月からの⑬学校のリーダーとしての心構えや力をたくわえていく必要がある。

水曜日は、全学年5限授業で一斉下校になっている。毎週水曜日には職員会議や研修会がはいっており、放課後は会議になることが多い。働き方改革の一つで、会議時間は1時間以内におさえるという目標がある。今日の職員会議も、各分掌からの提案文書を教頭先生が事前にまとめ配付してきている。提案はポイントを押さえ、短時間で実りのある内容にしなければならない。

今日の職員会議はちょうど1時間だった。会議室での職員会議を終え職員室に戻った千草は、先週から取り組み始めた学級活動の準備に取り掛かった。先日全校で実施した⑭ハイパーのこ

#### ⑪【凡事一流】

・大宮小学校の児童は、普段の授業はもちろん、掃除や係活動などの学校生活全般において、とても真面目に責任感を持って取り組んでいます。凡事一流は、さらに一歩進んで、一つ一つの行動が当たり前以上の一流であると言われるくらいにできる力をつけようというものです。 ※児童アンケートより

「学習や生活(係や掃除)で、当たり前のことに一生懸命取り組んでいる」 A 評価 82%。B 評価 18% という結果です。100%の子どもが肯定的に自己評価をしています。



#### ⑫【人権週間】

・文化祭の取り組みが終わると、12月の人権週間にむけて人権学習に取り組んでいきます。大きな取組は人権フォーラムの取組です。まず全員が自分の生活を人権の視点で見つめ直し、作文を書きます。書いた作文はクラス人権フォーラムで発表し、クラスのみならずいろいろな意見や感想をもらいます。その後、クラス代表を決めて、低中高に分かれて3つの人権フォーラムをにじの広場で行います。児童会では、今年、いじめ防止標語コンクールとピンクシャツ運動に取り組みました。

#### ⑬【学校のリーダー】

・大宮小学校の良き伝統の一つが、高学年のリーダーシップです。4年生くらいでは、このあとどう育っていくのだろう?と思うこともありますが、5年生、6年生と成長するにつれ、着実にリーダーシップを身に付けていきます。先輩の姿を見て、「自分たちもあんなろう。あんな6年生にならなければならない。」そんな意識が引き継がれています。

よりよい学校生活と仲間づくりのためのアンケートの結果を見ると、学級の中に「自己肯定感」が高く、児童が何人か見られた。その課題を克服しようとする取組である。

ふと時計を見ると、4時半を回りかけている。そろそろ定時だが、今日はもう少し頑張ろう。時計の横には『元気に学校に通えるのも先生方のおかげです。素晴らしい学校だと思っています。いつもありがとうございます。』という言葉の掲示物が貼られている。この言葉は、毎年行っている

⑮学校評価に係るアンケートで、保護者の方が書いてくれた言葉である。校長先生が、こんな嬉しい言葉といただいたと紹介してください、職員室に掲示してくれた。どの保護者か分からないが、この言葉を見るたびに心が温まり、頑張ろうという気持ちが沸きあがる。大人でも子どもでも、

⑯無条件に認めてもらえることほど嬉しいことはない。

確かに、年々仕事量は増え、対応に苦慮することも多い。しかし、子ども  
の笑顔や保護者からの感謝の言葉に、この仕事の良さを感じることが多いの  
も事実である。

そろそろ帰宅して、今度は自分の子ども達の夕ご飯の準備に取り掛から  
なければならぬ。べつしても明日までにやらなければならぬ仕事だけ  
持ち帰ろう。千草はそう思って職員室を出る準備をした。



#### ⑭【ハイパーQU】

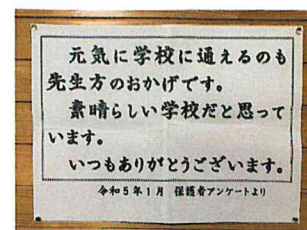
・学校生活における児童の意欲、満足感、肯定感、及び学級集団の状態を質問紙によって測定・診断するアンケート調査です。担任は、この結果をもとに個々の児童や学級全体に働きかけ、より良い学校生活が送れるよう手助けします。

#### ⑮【学校評価】

・学校評価には「学校自己評価」と「学校関係者評価」があり、毎年3学期に実施します。学校自己評価は、児童、保護者、教職員アンケートをもとに、教職員が自己評価するものです。学校関係者評価は、学校自己評価結果を、学校運営協議会の皆さんに見ていただき評価してもらうものです。結果は、教育委員会に報告するとともに、保護者の皆さんにも公開します。今回は、この学校プロフィールとともに、保護者の方に見てもらっています。

#### ⑯【無条件に承認すること】

・今年の保護者アンケートで『元気に学校に通えるのも先生方のおかげです。素晴らしい学校だと思っています。いつもありがとうございます。』という言葉いただきました。純粋に嬉しかったです。無条件で全てを認めてもらうことはこれほど嬉しく、次への意欲に繋がると、改めて実感しました。我々教員は常に子ども達を評価し改善しようとしています。時には苦言を呈して心を入れ替えさせようとしています。時には、8割くらい褒めて2割の注文をつけることもあります。どれも悪気があってのことでなく、必要であるからこそ耳の痛いとも言います。ただ、教員も親も子どもを無条件に承認することの大切さを忘れてはなりません。





## あとがき

学校経営ビジョンや学校経営計画を教職員(組織)に浸透させ、経営ビジョンを実現させていくことが、校長の役割である。「こんな子どもを育てたい」というビジョンが組織全体で共有され、同じ方向を向いた教職員が動き出す学校は強い。最後に校長として考えていたことをいくつか挙げたい。ただ、校長になってからというよりは、それよりもっと長い間、担任として学級という組織をいかに創り上げようか?という試行錯誤の中で染みついたことであることを付け加えておく。

### (1)場を与えること(課題をあたえること)

教師の仕事は子どもを成長させる(力をつける)ことである。子どもは放っておいても自然に成長はする。しかし、我々はプロである。工夫された場や課題(ハードル)を子どもに与え、それを跳び越えさせる過程で意図的・効果的に力を付けさせる技量を磨きたい。

校長が職員室の担任と考えた場合も同じ。個々の職員が活躍できる、あるいは成長できる場を与えることが大きな役割である。さらに、その職員が成長するための課題(ハードル)をねらいを持って与えたい。例えば、「次の行事ではこんな活動を取り入れてもらいたい。」「こんな研修活動をやってもらいたい。」など、個々の職員の力を伸ばすための意図的・効果的な課題(ハードル)を職員に与え、挑戦させる。このような過程で、組織のメンバー一人一人が、組織の中で自己肯定感や充実感を持てるような学校をつくりたい。

### (2)見守ること(いつもそばにいてくれる)

職員が与えられた場で力を発揮したり、課題(ハードル)を乗り越え成長したりするために、助言することは大切である。ただ、もっと感覚的な、「この人は、いつも自分のことを見てくれている。」「いつもそばにいてくれているという気がする。」という安心感や承認感が一番大切なことかもしれない。

昔、こんな教頭先生がいた。放課後教室で一人作業していると、戸締りに回る教頭先生が、ニヤニヤしながら「何やってるん?」と声をかけてくる。「文化祭の看板づくりですよ。」「……雑談……」「上手いもんなあ。自分には才能ないからよう手伝わんけど頑張ってるな。」と去っていく。それだけで嬉しかった覚えがある。

『自分の仕事や考えていることに関心を持ってくれている人がいる』ということは安心感と次へのやる気に繋がる。「〇〇先生、昼休み教室で何やってたの?」「〇〇先生、今日の授業のあそこは良かったよねー。」「……」「〇〇先生、最近、高校生の子どもさんの部活はどう?」……個々の先生の仕事や生活に関心を持つ。そして話しかける。簡単にできることで、とても重要なことである。当然、普段の様子をよく見ていないとできないことではあるが。

### (3)評価すること(価値付けること)

大人でも子どもでも、その活動や行動には評価がいる。「すごいなあ」「ここが良かったよ」など、肯定的な評価は大切である。ただ、褒めるだけに留まらず、その行動を『価値付ける』ことが大切であると、最近思うようになった。価値を付けるとは、単に褒めるだけでなく、「あなたのやっていることは、こういう価値がある」という意味付けをするということである。

このことは、本校のある先生の取組を見て気づかされた。その先生は、学級の子ども日常生活を写真に撮り、その行動の価値を分かり易い一文で表し、教室内に掲示する活動を通して、子ども達にクラスにおける価値を意識付けていった。一枚一枚増えていく教室の写真を見て、今クラスはこんな感じなんやなあと思った。案外自分では当たり前だと思っていて、その価値に気付いていないことも多い気がする。時には、客観的に価値づけしてやることによって、自分の行動の意味に気づき、それが、その人の中でさらに強化されることもある。

### (4)繋げること(組織づくり)

(1)(2)(3)と個々への対し方を述べてきたが、次は、組織のメンバーを繋ぐことである。学級担任とし

ての学級づくりや仲間づくりの過程と同じである。個人の活動の価値を、組織全体へ広げたいと思い、繋ぐ作業をする。それが上手くいくと組織全体が同じ方向を向いて活動を始める。

例えば、研修会や職員会議などの職員が集まった場で、「繋げる」というねらいを持って、個々の職員の取組を紹介したり、価値づけしたりする。また、これは時間を気にせず共有したいと思った時は、『通信』を利用して全員に読んでもらう。一時期、「校長だより」も発行したが、本校には研修部の取組として「研修だより」という通信があるので、最近はその利用している。これは、誰が、どんな内容でもいので、思いついたことを気軽に職員室に発信しよう、という研修部の取組である。自分は、ある先生の授業の様子を紹介することもあるし、教育活動に関わる考え方や方法、経験について書くこともある。

もう一つ意識していること。「〇〇先生！いいね。」と直接褒めることもあるが、出来れば間接的に褒めたいと思っている。例えば、「〇〇先生！この間、▲▲先生が、〇〇先生に助けてもらったって喜んでたよ。」「〇〇先生！保護者の◆◆さんが、担任の〇〇先生一生懸命な先生やって褒めていたよ。」あるいは、保護者に対して「□□さん！担任の〇〇先生が、□□さんはいつも協力してくれる姿勢で対応してくれるので頼りがいがあるんです。って言ってきましたよ。」など、伝聞形式で第三者の評価として伝える。この場合、A先生、B先生、そして私の三者が介在することになるが、A先生とB先生の間関係も良くなるのはもちろん、私との関係も良くなる。つまり、誰も損はしない有効な手立てであると思う。いろいろな策を練りたい。ただし、第三者に人の悪口を言うのは全く逆の効果をもたらすので絶対に避けたい。

#### (5)職員が好きか？(良いところがいくつ言える？)

最後に、一番難しいかもしれないこと。……… 自分の学校の職員がどのくらい好きか？一人一人について考えてみる。人間である以上、好き嫌いは発生するし、時期やタイミングによってもその感情は変化する。平易に言うと「好き嫌い」。違う表現をすると「一緒に仕事していると楽しい」とか「メンバーを大事にしたい」とか「信頼している」などの感情である。自分はもともと中学校の理科の教員であったが、担任をしていると、自分のクラスの生徒がすごく愛おしいと思う時、今日は顔も見たくないと思う時、実際には日々波があった。組織のメンバーの悪いところが目について、肯定的な感情が少ない時は活動が上手く進まないであろう。逆に、良いところが目が行き、組織の人間を好きという感情が多ければ仕事も楽しいし、成果も出るだろう。……… 次の様なことを、時々自問自答してみる。

○個々の職員が今どんなことに取り組んでいるか、自分は分かっているか？

○個々の職員のいいところや強みがいくつ言えるか？

○個々の職員の仕事や活動に興味を持っているか？

○頼もしいと感じているか？ ○好きであるか？ ○楽しいか？

自分自身の中で、肯定的な回答が少ない時は、もう一度(1)に戻って(2)(3)(4)と振り返ってみる。

最後になるが、「大宮小の職員の強みは？」と聞かれたら、まず、『① 様々な教育活動に対する前向きな姿勢』と、『② 互いを認め合いながら同じ方向を向いて取り組むことができる組織力』の二つを挙げるだろう。大宮小では、若手や中堅の教員が中心となり試行錯誤しながら全体を引っ張り、ベテランが助言し高めていくといった雰囲気がある。また、経験に関係なく、どの職員も自分の持ち場に責任を持ち、大宮小の教育活動や自分のスキルを高めようとする姿もある。

「この人に任せれば何とかなるだろう。何とかしてくれるだろう。」そういう職員が多いということは、とても心強い。組織の中で自分もそういう人材になりたいし、そういう人材を育てたい。よく学級の子どもに「お互い助け合えるクラスにしよう。」と言う。もっともなことではあるが、勘違いしたくないのは、「一人一人が弱いから助け合う。」のではなく、「一人一人が強いから助け合える。」のである。一人一人が前向きに自分を磨き、しなやかな強さをもつことで、周りの同僚や、子ども、保護者を支えられるようになりたいし、そういう組織でありたい。

令和5年2月27日 大宮小学校 校長 阪井宏行